

価値あるロータリー活動を を続けていくために

対談シリーズ
第5回

「親善と平和の確立に寄与する」ことを目指した、国際ロータリー。先の見えにくい社会の中で、どのような役割を必要とされているのか、国際ロータリー第2520地区ガバナーに就任した菅原裕典氏が各界の第一人者に聞いた。



東北学院大学学長室で

1960年仙台市生まれ。2001年から
(株)清月記社長。7月1日から宮城、
岩手県の第2520地区ガバナー



あるLife、Light、Loveの3Lの生き方は、私の人生や生き方に大きな影響を与えていると感じます。
松本 人間として一番多感な12歳から22歳までの10年間ですから、その影響というのは相当大きいですね。例えばどのような時に感じますか。

菅原 ロータリーもそうですが、青年会議所活動や会社経営の場で、自分がある意味、まとめ役として進めて行かなければならないときに、力を発揮できる根源になっているように思います。生き方や考え方の基本的な部分ですとか、軸が振れないようになったのは、若いときの10年間の学院生活のおかげだと感じています。

松本 私の場合は高校卒業後東京に行つて、菅原さんのように一貫性

はありませんが、育った岡山の懐しい環境がバックボーンにあるというのは感じますね。
菅原 人間は、与えられた環境の中で、いかにプラスに物事を考えていくかということがとても大事なのですね。
松本 私もそう思っています。今はきつなくても、必ず恵まれるときが来る。辛いことだけではない。いつもプラスに考えていると、良い人間関係に出会えたりするのです。若い

には本当に終わっちゃうわけです。そうでなくて、自分は生かされている以上、たとえ落ち込んだとしても、自分が存在することに意味があるのだと思うはずなのです。
生かされているのなら、何とかできるといふことになりません。ある意味では人間関係の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

「与えられた環境の中で いかにプラスに思考するか」

2015-2016年度
国際ロータリー第2520地区
ガバナー 菅原 裕典氏



「親善と平和の確立に寄与する」ことを目指した、国際ロータリー。先の見えにくい社会の中で、どのような役割を必要とされているのか、国際ロータリー第2520地区ガバナーに就任した菅原裕典氏が各界の第一人者に聞いた。

「人は生かされている、 と思うこと」

——東北学院大学学長 松本 宣郎氏

まつもと・のりお 学校法人東北学院理事長、東北学院大学学長
1944年岡山市生まれ。73年東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修了。博士(文学)。90年東北大学文学部教授、2001年東北大学大学院文学研究科長・文学部長。09年宮城学院学長。13年学校法人東北学院大学学長(任期3年、16年再任)。14年東北学院理事長兼任。趣味は、読書、野球データの収集。



方にはそういった人生を送ってほしいですね。

菅原 困難に遭ったとき、できな



今年で創立130年を迎える東北学院。新しいキャンパスづくりがスタートする。

い理由を考えるのではなく、どうしたらできるのかを考えられる生き方ですね。

松本 どのように工夫すれば解決するのか、立ち止まって考えることができる人間になることがとても大切なことです。絶望したときなど、その晩はもう寝てしまふ、翌朝になったら良いヒントが浮かぶと昔からよくいうじゃないですか。

菅原 東北学院のOBは17万人、そして現役学生が1万人以上在籍しています。先生が、学生やこれからの世代に期待しているものはなんでしょうか。

松本 やはり、自分は生かされているという考え方を持って、これからの人生を切り開いていってほしいという事です。自分の思いだけでやろうとすると、困難な場面に遭遇したとき、もう駄目だと思つたとき

味では人間精神の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

味では人間精神の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

味では人間精神の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

味では人間精神の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

味では人間精神の謙遜さっていうのでしょか。自分が一番ではないのだと思うことです。例えば、職場の問題とかに遭ったときに、すぐに落ち込んだりせずに、立ち止まって考える。人生これだけしかないと思つては駄目だということです。あとは、やはり、誠実に生きるといふことに真摯に取り組んでほしいと思います。

0年を迎えます。
松本 1886年、キリスト教の教えを建学の精神に、仙台神学校として誕生しました。人格教育を基礎とした教養と深い専門知識を教えられました。
菅原 どのような記念事業をお考えですか。
松本 一つは、青葉区の土樋キャンパスの整備と拡充です。地域に開かれたキャンパスづくりを標榜しています。コンセプトは知的アトリエです。カフェや緑道などを地域に提供します。二つめは、奨学金制度を整備して、経済的困難を抱えている人にも進学機会を与えます。また土樋キャンパス内の歴史的な建造物の補修なども行い、より魅力的な街区に生まれ変わらうと考えています。
菅原 私たち国際ロータリーも、米山奨学生制度で、留学生などへ多くの支援を行ってきています。そして自分の仕事を通して地域にどのように貢献できるかといつも考えながら活動をしている組織です。その点でも、東北学院の考え方に通じていると思っております。
松本 仕事の中にも社会貢献という姿勢を貫いているロータリアンの姿勢は素晴らしいと思います。
菅原 本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。130周年事業の成功と、今後の東北学院の発展を祈っております。